

厚生労働省は7月、市区町村が行う胃がん検診に、鼻や口から入れる内視鏡による検査を推奨する方針を固めた。

バリウムを飲むX線検査も引き続き推奨し、受検者がどちらかを選択する。

がん検診に関する国の方針では、死亡率を下げる効果が科学的に証明された方法のみを推奨している。胃がんの内視鏡検査については、国立がん研究センターが2015年4月、国内や韓国の研究で効果が確認できたと発表したことを踏まえて推奨を決めたものである。

ただ、内視鏡専門医の偏在や検診の精度管理、X線検査より費用がかかることなど課題が多い。また、鼻からの出血や胃に穴が開くことなどもまれにあり、適切に対応できる体制整備も求められる。

検診対象年齢と受診感覚は、同センターが「50歳以上、2年に1回」を推奨しているが、現在のX線検査の「40歳以上、年1回」との調整なども検討会で議論することになる。

(2015/07/29 厚労省HPから)